

令和7年度

柔道整復スポーツ科学科

1年

シラバス

学校法人 健生学園
東日本医療専門学校

授業科目名	人文科学			授業形態	講義	教員名	菊池 泰子																																	
科目区分	基礎分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	1 年生																														
授業概要	「コミュニケーション演習」																																							
授業の到達目標	様々な場面における、聞く・話す・読む・書くの4技能を柱に、コミュニケーションの方法を振り返り、社会人として必要なスキルを身につける。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 コミュニケーションしてみよう</td> <td>序章 効果的な自己紹介と自己開示</td> </tr> <tr> <td>第2週目 コミュニケーションの基本を身につけようI</td> <td>第1部1章-1 アクティビティ1</td> </tr> <tr> <td>第3週目 コミュニケーションの基本を身につけようII</td> <td>1章-2 アクティビティ2</td> </tr> <tr> <td>第4週目 きれいな発声・発音を身につけよう</td> <td>2章 アクティビティ3</td> </tr> <tr> <td>第5週目 正しい日本語を身につけよう</td> <td>3章 アクティビティ4</td> </tr> <tr> <td>第6週目 話す時の心構えを理解しよう</td> <td>4章 アクティビティ5</td> </tr> <tr> <td>第7週目 効果的な話し方を身につけようI</td> <td>5章-1 アクティビティ6</td> </tr> <tr> <td>第8週目 効果的な話し方を身につけようII</td> <td>5章-2 アクティビティ7</td> </tr> <tr> <td>第9週目 効果的な表現力を身につけようI</td> <td>6章 中間演習</td> </tr> <tr> <td>第10週目 聞くことの重要性 I</td> <td>第2部1章-1 アクティビティ8</td> </tr> <tr> <td>第11週目 聞くことの重要性 II</td> <td>1章-2 アクティビティ9</td> </tr> <tr> <td>第12週目 聞くことの重要性III</td> <td>1章-3 アクティビティ10</td> </tr> <tr> <td>第13週目 試験対策</td> <td>試験対策</td> </tr> <tr> <td>第14週目 試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験FBとコミュニケーション検定の紹介</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">内容は多少変更あり</p> <p>(授業の方法および自学学習について) 毎回課題アクティビティがあるのでそれに取り組み、課題アクティビティ・参加度として点数化する。</p>										第1週目 コミュニケーションしてみよう	序章 効果的な自己紹介と自己開示	第2週目 コミュニケーションの基本を身につけようI	第1部1章-1 アクティビティ1	第3週目 コミュニケーションの基本を身につけようII	1章-2 アクティビティ2	第4週目 きれいな発声・発音を身につけよう	2章 アクティビティ3	第5週目 正しい日本語を身につけよう	3章 アクティビティ4	第6週目 話す時の心構えを理解しよう	4章 アクティビティ5	第7週目 効果的な話し方を身につけようI	5章-1 アクティビティ6	第8週目 効果的な話し方を身につけようII	5章-2 アクティビティ7	第9週目 効果的な表現力を身につけようI	6章 中間演習	第10週目 聞くことの重要性 I	第2部1章-1 アクティビティ8	第11週目 聞くことの重要性 II	1章-2 アクティビティ9	第12週目 聞くことの重要性III	1章-3 アクティビティ10	第13週目 試験対策	試験対策	第14週目 試験		第15週目 試験FBとコミュニケーション検定の紹介	
第1週目 コミュニケーションしてみよう	序章 効果的な自己紹介と自己開示																																							
第2週目 コミュニケーションの基本を身につけようI	第1部1章-1 アクティビティ1																																							
第3週目 コミュニケーションの基本を身につけようII	1章-2 アクティビティ2																																							
第4週目 きれいな発声・発音を身につけよう	2章 アクティビティ3																																							
第5週目 正しい日本語を身につけよう	3章 アクティビティ4																																							
第6週目 話す時の心構えを理解しよう	4章 アクティビティ5																																							
第7週目 効果的な話し方を身につけようI	5章-1 アクティビティ6																																							
第8週目 効果的な話し方を身につけようII	5章-2 アクティビティ7																																							
第9週目 効果的な表現力を身につけようI	6章 中間演習																																							
第10週目 聞くことの重要性 I	第2部1章-1 アクティビティ8																																							
第11週目 聞くことの重要性 II	1章-2 アクティビティ9																																							
第12週目 聞くことの重要性III	1章-3 アクティビティ10																																							
第13週目 試験対策	試験対策																																							
第14週目 試験																																								
第15週目 試験FBとコミュニケーション検定の紹介																																								
教科書・参考書等	『コミュニケーション技法』(ウィネット)																																							
成績評価の方法	テスト70点・平常点とアクティビティ点30点(アクティビティ点は、授業参加度が低い場合はその都度減点します)→合計100点																																							
実践的教育に関する経歴等	高等学校国語1種免許,日本語教育能力検定試験合格,国家資格登録日本語教員,コミュニケーション検定上級合格,文化庁「就労者に対する日本語教師養成研修」修了																																							

授業科目名	社会科学			授業形態	講義	教員名	吉田 理																																	
科目区分	基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生																														
授業概要	社会人として必要とされる基本の一つである「教養」について共に学ぶ。																																							
授業の到達目標	現代の社会はこれまでの常識が通用せず、かといって諸外国の例も参考にならない非常に生きづらい世と言える。このような時代に於いて、社会人として或いは一個の人間としてどのように生活を送り自己を保っていくべきなのであろうか。本講義では阿部謹也『「教養」とは何か』を基に学生諸君と共に考えながらその答えを探ろうとするものである。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 ガイダンス。現代の社会とは何か</td> <td>第16週目 後期ガイダンス…プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2週目 コミュニケーションについて</td> <td>第17週目 プレゼンテーション訓練</td> </tr> <tr> <td>第3週目 自己の把握について</td> <td>第18週目 個人の教養について</td> </tr> <tr> <td>第4週目 少子高齢化について</td> <td>第19週目 プレゼン①、孤独について</td> </tr> <tr> <td>第5週目 少子高齢化について・その2</td> <td>第20週目 プレゼン②、友情について</td> </tr> <tr> <td>第6週目 情報化社会について</td> <td>第21週目 プレゼン③、恋愛について</td> </tr> <tr> <td>第7週目 国際化社会について</td> <td>第22週目 プレゼン④、防衛機制について</td> </tr> <tr> <td>第8週目 日本古来の教養について</td> <td>第23週目 プレゼン⑤、源流思想「愛」について</td> </tr> <tr> <td>第9週目 宗教について</td> <td>第24週目 プレゼン⑥、教養とは何か</td> </tr> <tr> <td>第10週目 宗教について・その2</td> <td>第25週目 プレゼン⑦、茶道と教養</td> </tr> <tr> <td>第11週目 建前と本音について</td> <td>第26週目 プレゼン⑧、葬式と世間</td> </tr> <tr> <td>第12週目 建前と本音の区別について</td> <td>第27週目 プレゼン・補、子供の教育について</td> </tr> <tr> <td>第13週目 大人になるとは何か。小テスト</td> <td>第28週目 世間からの自由。小テスト</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期末試験</td> <td>第29週目 後期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 答案返却・解説。後期授業説明</td> <td>第30週目 答案返却・解説。後期授業説明</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書中心の講義形式を基本とするが、しばしばアクティビティを導入する。 ・他に例のない講義内容となるので休まず集中して臨むこと。 										第1週目 ガイダンス。現代の社会とは何か	第16週目 後期ガイダンス…プレゼンテーション	第2週目 コミュニケーションについて	第17週目 プレゼンテーション訓練	第3週目 自己の把握について	第18週目 個人の教養について	第4週目 少子高齢化について	第19週目 プレゼン①、孤独について	第5週目 少子高齢化について・その2	第20週目 プレゼン②、友情について	第6週目 情報化社会について	第21週目 プレゼン③、恋愛について	第7週目 国際化社会について	第22週目 プレゼン④、防衛機制について	第8週目 日本古来の教養について	第23週目 プレゼン⑤、源流思想「愛」について	第9週目 宗教について	第24週目 プレゼン⑥、教養とは何か	第10週目 宗教について・その2	第25週目 プレゼン⑦、茶道と教養	第11週目 建前と本音について	第26週目 プレゼン⑧、葬式と世間	第12週目 建前と本音の区別について	第27週目 プレゼン・補、子供の教育について	第13週目 大人になるとは何か。小テスト	第28週目 世間からの自由。小テスト	第14週目 前期末試験	第29週目 後期末試験	第15週目 答案返却・解説。後期授業説明	第30週目 答案返却・解説。後期授業説明
第1週目 ガイダンス。現代の社会とは何か	第16週目 後期ガイダンス…プレゼンテーション																																							
第2週目 コミュニケーションについて	第17週目 プレゼンテーション訓練																																							
第3週目 自己の把握について	第18週目 個人の教養について																																							
第4週目 少子高齢化について	第19週目 プレゼン①、孤独について																																							
第5週目 少子高齢化について・その2	第20週目 プレゼン②、友情について																																							
第6週目 情報化社会について	第21週目 プレゼン③、恋愛について																																							
第7週目 国際化社会について	第22週目 プレゼン④、防衛機制について																																							
第8週目 日本古来の教養について	第23週目 プレゼン⑤、源流思想「愛」について																																							
第9週目 宗教について	第24週目 プレゼン⑥、教養とは何か																																							
第10週目 宗教について・その2	第25週目 プレゼン⑦、茶道と教養																																							
第11週目 建前と本音について	第26週目 プレゼン⑧、葬式と世間																																							
第12週目 建前と本音の区別について	第27週目 プレゼン・補、子供の教育について																																							
第13週目 大人になるとは何か。小テスト	第28週目 世間からの自由。小テスト																																							
第14週目 前期末試験	第29週目 後期末試験																																							
第15週目 答案返却・解説。後期授業説明	第30週目 答案返却・解説。後期授業説明																																							
教科書・参考書等	阿部謹也『「教養」とは何か』講談社現代新書																																							
成績評価の方法	出席状況および期末試験の点数で総合的に評価する。なお後期のプレゼンテーション発表は単位認定の基礎項目となる。																																							
実践的教育に関する経歴等	①法人事務長(9年)、②高等学校進路(進学・就職)担当責任者(5年)、③教員採用試験及び公務員採用試験予備校人物対策担当責任者(8年)、④高等学校教諭専修免許状(社会)																																							

授業科目名	保健体育			授業形態	実技	教員名	高橋 孝義			
科目区分	基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	①健康を維持するために必要な体力増進の方法と実践 ②柔道を通じた効率的な身体の動かし方 ③心身の機能や健康などについての理解 ④武道(柔道)を通しての身体精神の鍛錬修養									
授業の到達目標	・安全に受け身が出来るようになる。 ・投げ形「手技、腰技、足技」を習得する。 ・投げ技の理論を理解し技術を身につけ約束乱取が安全に出来るようになる。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 諸注意、柔道の起源、歴史、柔道着の着方 第2週目 回転運動、受け身(後方受け身) 第3週目 回転運動、受け身(後方受け身) 第4週目 回転運動、受け身(横) 第5週目 回転運動、受け身(横) 第6週目 回転運動、受け身(前) 第7週目 回転運動、前方回転受け身 第8週目 回転運動、前方回転受け身 第9週目 回転運動、前方回転受け身 第10週目 回転運動、前方回転受け身 第11週目 回転運動、前方回転受け身 第12週目 前方回転受け身、投げ形(手技) 第13週目 前方回転受け身、投げ形(手技) 第14週目 試験 第15週目 前方回転受け身、投げ形(手技) 第16週目 前方回転受け身、投げ形(腰技) 第17週目 前方回転受け身、投げ形(腰技) 第18週目 前方回転受け身、投げ形(腰技) 第19週目 前方回転受け身、投げ形(足技) 第20週目 前方回転受け身、投げ形(足技) 第21週目 前方回転受け身、投げ形(足技) 第22週目 投げ技(大腰)、固め技(けさ固め) 第23週目 投げ技(体落し)、固め技(上四方固め) 第24週目 投げ技(足払)、固め技(横四方固め) 第25週目 立技反復、絞め技・関節技 第26週目 立技反復、約束乱取 第27週目 立技反復、約束乱取 第28週目 立技反復、約束乱取 第29週目 試験 第30週目 紅白試合									
	(授業の方法および自学学習について) 本講義は、柔道場およびトレーニング室にて主に講義を行う。各学生は柔道着またはトレーニングを行いやすい衣服にて講義に望むこと。 ※柔道の場合は柔道着を必ず着る事。 ※仕方のない理由で見学する場合も可能な限り柔道着を着るようにすること。 講義の進行状況により、教室にて講義を行う場合もある。									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	欠席の多いものには単位を与えない。また見学の多いものにも同様に単位を与えない。 止むを得ない理由により見学する場合は予め担当教員に証明書等を提出し、許可を得る事。 期末試験を年2回実施する(実技あるいは記述試験、またはその両方) 通年成績が120点以上となった場合のみ単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	高等学校教員免許(保健体育)									

授業科目名	外国語			授業形態	講義	教員名	箱島 千賀			
科目区分	基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	高校程度までに学習した内容を基礎とし、英語を母国語とする人たちの文化や思想にふれ、国際社会に対応できる背景に興味を持ち、コミュニケーションとしての英語表現力を身につけることを目指します。合わせて日常生活における英語や医療の現場に必要な英語を学びます。医療英語には少し難しい発音を持つ単語がありますので、練習が必要です。テキスト付属のCDにある単語と会話表現を自身でも多く聞くようにして、自分の耳にたくさん聞かせてあげましょう。病院などで遭遇しそうな場面・内容を取り入れたケーススタディーを練習に多く取り入れ、発音・発話練習と共に積極的に取り組んでいきましょう。									
授業の到達目標	1 基本的な英文法をコミュニケーションの中で使えるように練習します。〈文法力の養成〉 2 英語リスニングを鍛えましょう。そのためには正確に発音できることが大事です。〈英語を聞きとる力の養成〉 3 日常生活や医療現場でよく使用される語彙や表現を知り、英語コミュニケーションに役立てましょう。〈スピーキング力の養成〉 4 異文化の違いを知り、人々の生活や価値観について理解を深めましょう。〈異文化理解〉									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 Guidance 第16週目 Lesson 7 Reception Desk 再診受付(1) 第2週目 Lesson 1 Basic Words and Phrases はじめの一步(1) 第17週目 Lesson 7 Reception Desk 再診受付(2) 第3週目 Lesson 1 Basic Words and Phrases はじめの一步(2) 第18週目 Lesson 9 Symptoms and Diseases 症状と病名(1) 第4週目 Lesson 2 Body Parts and Organs 体と内臓(1) 第19週目 Lesson 9 Symptoms and Diseases 症状と病名(2) 第5週目 Lesson 2 Body Parts and Organs 体と内臓(2) 第20週目 Lesson 10 Medical Terminology 医療用語【略語】(1) 第6週目 Lesson 3 Hospital Registration 新患受付(1) 第21週目 Lesson 11 Getting to the Hospital 病院へのアクセス(1) 第7週目 Lesson 3 Hospital Registration 新患受付(2) 第22週目 Lesson 11 Getting to the Hospital 病院へのアクセス(2) 第8週目 Lesson 4 Hospital Registration Forms 診察申込書(1) 第23週目 Lesson 12 Finding Your way Around 案内(1) 第9週目 Lesson 4 Hospital Registration Forms 診察申込書(2) 第24週目 Lesson 12 Finding Your way Around 案内(2) 第10週目 Lesson 5 Personal Information 個人情報(1) 第25週目 Lesson 13 At the Cashier's Window 会計(1) 第11週目 Lesson 5 Personal Information 個人情報(2) 第26週目 Lesson 13 At the Cashier's Window 会計(2) 第12週目 Lesson 6 Admissions 入院受付(1) 第27週目 Lesson 14 At the Pharmacy 薬局(1) 第13週目 Lesson 6 Admissions 入院受付(2) 第28週目 Lesson 14 At the Pharmacy 薬局(2) 第14週目 期末試験 Review 1-6 第29週目 期末試験 Review 7-14 第15週目 期末試験 解答解説・解説 第30週目 期末試験 解答解説・解説 (授業の方法および自学学習について): 毎回授業の中で、解答や練習成果を発表してもらいます。 [授業方法] (1)テキストを使用して会話表現や会話を練習します。授業の中では英語の単語、表現、会話文の音声を繰り返し聞いて、発音、発話の練習します。(2)テキストにある練習問題を解きながら、英語表現の知識を定着させます。(3)英語コミュニケーションを身近に感じて使えるようにするために、ペアを組んで、会話練習を行います。 [自主学习について] 事前学習: 英語単語・表現の意味を調べましょう。(2)テキストCDを聞きましょう。 事後学習: 授業で行った練習を振り返り、声を出して発音・発話練習をしてみましょう。									
教科書・参考書等	『Basic English for Medical Office Assistants 医療事務スタッフをめざす人のための医療英語』(南雲堂) ※毎回、電子辞書or英和辞典を持参すること。(必須)									
成績評価の方法	前期後期それぞれ共通 (1) 期末試験 60% * 第14回講義時に実施(2) 講義内における取組み 40% [教員の質問に対する回答、ペア練習] (3) 授業内の取組みに対する減点 [最大でマイナス15点] * 居眠り、回答なし、ペアワークへの不参加 (4) 遅刻早退に対する減点 [最大でマイナス15点] 【(2)(3)(4)の評価ポイント: ①声を出して正確に英語発音できる。②テキストの演習問題に解答できる。③簡単な英語の質問に対して英語で答えられる。④私語や居眠りなどがある場合はマイナス点が発生する。】* 欠席の場合、その講義回で上記(2)で得られる点数が「0点」となる。 上記項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する(59点以下は不合格となる)。不合格であった場合、学校が行う追試験を受験する(その場合、最高点は60点となる)。また欠席(数)に関する扱いは学校の取り決めに従うものとする。進度について、学生の理解度に合わせ進んでいくため、講義内容が変わる場合も可能性としてあるが、その時は逐次アナウンスする。									
実践的教育に關する経歴等	1 東北学院大学非常勤講師現職、宮城学院女子大学非常勤講師現職、 日本大学工学部非常勤講師現職、石巻赤十字看護専門学校非常勤講師現職 2 中学校、高等学校教員免許(英語)									

授業科目名	解剖学 I			授業形態	講義	教員名	市川 博之			
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	ヒトの体の細胞、組織、また消化器、呼吸器、脈管系に関して肉眼解剖学および顕微解剖学的な知識を習得することが一義的な目標であるが、同時にそれらに関わる様々な疾患の症状や診断に有用な知識として活用する力をつける。脈管系に関しては、特に体表からの位置をイメージできるようになることを目的とする。									
授業の到達目標	1) 解剖学について医学の中の基本的な位置づけ、考え方、学び方を学ぶ。 2) 顕微解剖としての細胞、組織を説明できる。 3) 消化器系、呼吸器系、脈管系について解剖学的知識を習得する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 解剖学概説 意義と分類 細胞 第2週目 細胞、組織 第3週目 組織 第4週目 消化器概略 第5週目 消化器 口腔 第6週目 消化器 咽頭、食道 第7週目 消化器 胃 第8週目 消化器 小腸と大腸 第9週目 消化器 肝臓 第10週目 消化器 膵臓、胆嚢 第11週目 呼吸器 鼻腔、副鼻腔 第12週目 呼吸器 喉頭、気管、気管支 第13週目 呼吸器 肺 第14週目 前期期末試験 第15週目 試験解説など 第16週目 泌尿器 第17週目 泌尿器 第18週目 脈管総論 第19週目 心臓 第20週目 心臓の構造、心膜 第21週目 心臓の刺激伝導系、栄養血管 第22週目 動脈概観、頭頸部の動脈 第23週目 上肢の動脈 第24週目 胸部腹部の動脈 第25週目 骨盤部、下肢の動脈 第26週目 静脈概観、静脈の特異な構造 第27週目 静脈の特異な構造、胎児循環 第28週目 リンパ性器官 第29週目 後期期末試験 第30週目 試験解説など (授業の方法および自学学習について) ・基本的に講義はスライドを用いた講義とするが、講義前に教科書を読んでおくことが望ましい。									
教科書・参考書等	解剖学 改訂第2版 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版									
成績評価の方法	前期、後期期末試験の試験結果で評価を行う。ただし再試験においては課題に対する提出レポートの有無、内容などについても評価に加える。									
実践的教育に関する経歴等	①歯科医師免許									

授業科目名	解剖学Ⅱ			授業形態	講義	教員名	市川 博之			
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	ヒトの体の生殖器系・内分泌系・神経系について肉眼解剖学的および顕微解剖学的な知識を習得することが目標である。同時に患者の神経筋疾患などの症状やメカニズムを理解するための知識を習得する。									
授業の到達目標	1) 生殖器系・内分泌系について、肉眼解剖および顕微解剖学的知識を習得する。 2) 神経系について、肉眼解剖および顕微解剖学的知識を習得する。 3) 神経系について臨床的に診断、治療に利用できる知識と考え方を身につける。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 生殖器系 第2週目 生殖器系 第3週目 内分泌系 第4週目 内分泌系 第5週目 内分泌系 第6週目 神経系総論 第7週目 中枢神経 脳幹 第8週目 中枢神経 脳幹 第9週目 中枢神経 間脳、小脳 第10週目 中枢神経 大脳 第11週目 中枢神経 大脳 第12週目 中枢神経 脊髄、伝導路 第13週目 伝導路 第14週目 前期期末試験 第15週目 試験解説など 第16週目 末梢神経総論 第17週目 脳神経 第18週目 脳神経 第19週目 頸神経 第20週目 胸神経、腰神経 第21週目 腰神経 第22週目 仙骨神経 第23週目 仙骨神経、尾骨神経 第24週目 自律神経 第25週目 自律神経 第26週目 感覚器 第27週目 感覚器 第28週目 感覚器 第29週目 後期期末試験 第30週目 試験解説など (授業の方法および自学学習について) ・基本的に講義はスライドを用いた講義とするが、講義前に教科書を読んでおくことが望ましい。									
教科書・参考書等	解剖学 改訂第2版 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版									
成績評価の方法	前期、後期期末試験の試験結果で評価を行う。ただし再試験においては課題に対する提出レポートの有無、内容などについても評価に加える。									
実践的教育に関する経歴等	① 歯科医師免許									

授業科目名	生理学 I			授業形態	講義	教員名	寺村 聡司																																																																																														
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生																																																																																											
授業概要	人体の機能を学んでいく中で生理学の仕組みを把握し、柔道整復師として必要不可欠な基礎知識を習得していく。																																																																																																				
授業の到達目標	・各種機能について理解できる																																																																																																				
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目</td> <td>血液の生理学</td> <td>役割、組成</td> <td>第16週目</td> <td>尿の生成と排泄</td> <td>腎臓の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>第2週目</td> <td>血液の生理学</td> <td>止血</td> <td>第17週目</td> <td>尿の生成と排泄</td> <td>尿の生成</td> </tr> <tr> <td>第3週目</td> <td>血液の生理学</td> <td>血液型、免疫</td> <td>第18週目</td> <td>尿の生成と排泄</td> <td>腎血流量、排尿</td> </tr> <tr> <td>第4週目</td> <td>血液の生理学</td> <td>免疫</td> <td>第19週目</td> <td>尿の生成と排泄</td> <td>体液調節</td> </tr> <tr> <td>第5週目</td> <td>循環の生理学</td> <td>心臓(機能的解剖、心電図)</td> <td>第20週目</td> <td>栄養と代謝</td> <td>栄養素、エネルギー代謝</td> </tr> <tr> <td>第6週目</td> <td>循環の生理学</td> <td>心臓(心臓の活動周期)、血管</td> <td>第21週目</td> <td>栄養と代謝</td> <td>栄養素の代謝、食物と栄養</td> </tr> <tr> <td>第7週目</td> <td>循環の生理学</td> <td>血管、リンパ系</td> <td>第22週目</td> <td>消化と吸収</td> <td>消化器系の構成とはたらき</td> </tr> <tr> <td>第8週目</td> <td>循環の生理学</td> <td>循環調節</td> <td>第23週目</td> <td>消化と吸収</td> <td>食物の消化と吸収</td> </tr> <tr> <td>第9週目</td> <td>呼吸の生理学</td> <td>換気</td> <td>第24週目</td> <td>消化と吸収</td> <td>食物の消化と吸収</td> </tr> <tr> <td>第10週目</td> <td>呼吸の生理学</td> <td>ガス交換と運搬</td> <td>第25週目</td> <td>消化と吸収</td> <td>各栄養素の消化と吸収</td> </tr> <tr> <td>第11週目</td> <td>呼吸の生理学</td> <td>呼吸の調節</td> <td>第26週目</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12週目</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td>第27週目</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13週目</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td>第28週目</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14週目</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td>第29週目</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15週目</td> <td>期末試験</td> <td></td> <td>第30週目</td> <td>期末試験</td> <td></td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について) 教科書をよく読み、演習問題について十分に復習すること</p>											第1週目	血液の生理学	役割、組成	第16週目	尿の生成と排泄	腎臓の構造と機能	第2週目	血液の生理学	止血	第17週目	尿の生成と排泄	尿の生成	第3週目	血液の生理学	血液型、免疫	第18週目	尿の生成と排泄	腎血流量、排尿	第4週目	血液の生理学	免疫	第19週目	尿の生成と排泄	体液調節	第5週目	循環の生理学	心臓(機能的解剖、心電図)	第20週目	栄養と代謝	栄養素、エネルギー代謝	第6週目	循環の生理学	心臓(心臓の活動周期)、血管	第21週目	栄養と代謝	栄養素の代謝、食物と栄養	第7週目	循環の生理学	血管、リンパ系	第22週目	消化と吸収	消化器系の構成とはたらき	第8週目	循環の生理学	循環調節	第23週目	消化と吸収	食物の消化と吸収	第9週目	呼吸の生理学	換気	第24週目	消化と吸収	食物の消化と吸収	第10週目	呼吸の生理学	ガス交換と運搬	第25週目	消化と吸収	各栄養素の消化と吸収	第11週目	呼吸の生理学	呼吸の調節	第26週目	まとめ		第12週目	まとめ		第27週目	まとめ		第13週目	まとめ		第28週目	まとめ		第14週目	まとめ		第29週目	まとめ		第15週目	期末試験		第30週目	期末試験	
第1週目	血液の生理学	役割、組成	第16週目	尿の生成と排泄	腎臓の構造と機能																																																																																																
第2週目	血液の生理学	止血	第17週目	尿の生成と排泄	尿の生成																																																																																																
第3週目	血液の生理学	血液型、免疫	第18週目	尿の生成と排泄	腎血流量、排尿																																																																																																
第4週目	血液の生理学	免疫	第19週目	尿の生成と排泄	体液調節																																																																																																
第5週目	循環の生理学	心臓(機能的解剖、心電図)	第20週目	栄養と代謝	栄養素、エネルギー代謝																																																																																																
第6週目	循環の生理学	心臓(心臓の活動周期)、血管	第21週目	栄養と代謝	栄養素の代謝、食物と栄養																																																																																																
第7週目	循環の生理学	血管、リンパ系	第22週目	消化と吸収	消化器系の構成とはたらき																																																																																																
第8週目	循環の生理学	循環調節	第23週目	消化と吸収	食物の消化と吸収																																																																																																
第9週目	呼吸の生理学	換気	第24週目	消化と吸収	食物の消化と吸収																																																																																																
第10週目	呼吸の生理学	ガス交換と運搬	第25週目	消化と吸収	各栄養素の消化と吸収																																																																																																
第11週目	呼吸の生理学	呼吸の調節	第26週目	まとめ																																																																																																	
第12週目	まとめ		第27週目	まとめ																																																																																																	
第13週目	まとめ		第28週目	まとめ																																																																																																	
第14週目	まとめ		第29週目	まとめ																																																																																																	
第15週目	期末試験		第30週目	期末試験																																																																																																	
教科書・参考書等	生理学第4版(南江堂)																																																																																																				
成績評価の方法	<p>期末試験の得点を主とするが、出席状況や授業態度を平常点として加味する場合がある</p> <p>前期と後期の合計が120点以上に達した場合を合格とする</p>																																																																																																				
実践的教育に関する経歴等	医師																																																																																																				

授業科目名	生理学Ⅱ			授業形態	講義	教員名	原 光平																																				
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生																																	
授業概要	人体の機能を学んでいく中で生理学の仕組みを把握し、柔道整復師として必要不可欠な基礎知識を習得していく。																																										
授業の到達目標	1)生理学、神経の機能、感覚の生理、内分泌、生殖についての重要事項を理解できる。 2)上記の分野について、国家試験にも対応できる基礎知識が身につく。																																										
授業内容・計画	(授業計画) <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center; width:50%;">前期</td> <td style="text-align:center; width:50%;">後期</td> </tr> <tr> <td>第1週目 生理学とは① 前期ガイダンス</td> <td>第16週目 内分泌① 後期ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>第2週目 生理学とは②</td> <td>第17週目 内分泌②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 生理学とは③</td> <td>第18週目 内分泌③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 神経の機能①</td> <td>第19週目 内分泌④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 神経の機能②</td> <td>第20週目 内分泌⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 神経の機能③</td> <td>第21週目 内分泌⑥</td> </tr> <tr> <td>第7週目 神経の機能④</td> <td>第22週目 生殖①</td> </tr> <tr> <td>第8週目 感覚の生理①</td> <td>第23週目 生殖②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 感覚の生理②</td> <td>第24週目 生殖③</td> </tr> <tr> <td>第10週目 感覚の生理③</td> <td>第25週目 生殖④</td> </tr> <tr> <td>第11週目 感覚の生理④</td> <td>第26週目 生殖⑤</td> </tr> <tr> <td>第12週目 まとめ①</td> <td>第27週目 まとめ①</td> </tr> <tr> <td>第13週目 まとめ②</td> <td>第28週目 まとめ②</td> </tr> <tr> <td>第14週目 期末試験</td> <td>第29週目 期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 期末試験 返却・解説</td> <td>第30週目 期末試験 返却・解説</td> </tr> </table> (授業の方法および自学学習について) ・配布プリントで大まかな基礎知識を確認したあと、指定教科書を用いて重要項目を確認していく。											前期	後期	第1週目 生理学とは① 前期ガイダンス	第16週目 内分泌① 後期ガイダンス	第2週目 生理学とは②	第17週目 内分泌②	第3週目 生理学とは③	第18週目 内分泌③	第4週目 神経の機能①	第19週目 内分泌④	第5週目 神経の機能②	第20週目 内分泌⑤	第6週目 神経の機能③	第21週目 内分泌⑥	第7週目 神経の機能④	第22週目 生殖①	第8週目 感覚の生理①	第23週目 生殖②	第9週目 感覚の生理②	第24週目 生殖③	第10週目 感覚の生理③	第25週目 生殖④	第11週目 感覚の生理④	第26週目 生殖⑤	第12週目 まとめ①	第27週目 まとめ①	第13週目 まとめ②	第28週目 まとめ②	第14週目 期末試験	第29週目 期末試験	第15週目 期末試験 返却・解説	第30週目 期末試験 返却・解説
前期	後期																																										
第1週目 生理学とは① 前期ガイダンス	第16週目 内分泌① 後期ガイダンス																																										
第2週目 生理学とは②	第17週目 内分泌②																																										
第3週目 生理学とは③	第18週目 内分泌③																																										
第4週目 神経の機能①	第19週目 内分泌④																																										
第5週目 神経の機能②	第20週目 内分泌⑤																																										
第6週目 神経の機能③	第21週目 内分泌⑥																																										
第7週目 神経の機能④	第22週目 生殖①																																										
第8週目 感覚の生理①	第23週目 生殖②																																										
第9週目 感覚の生理②	第24週目 生殖③																																										
第10週目 感覚の生理③	第25週目 生殖④																																										
第11週目 感覚の生理④	第26週目 生殖⑤																																										
第12週目 まとめ①	第27週目 まとめ①																																										
第13週目 まとめ②	第28週目 まとめ②																																										
第14週目 期末試験	第29週目 期末試験																																										
第15週目 期末試験 返却・解説	第30週目 期末試験 返却・解説																																										
教科書・参考書等	・生理学改訂第4版(南江堂)																																										
成績評価の方法	前期・後期それぞれ期末試験(100点)で評価し『前期・後期ともに』60点以上で合格とし単位認定とする。 場合により、レポート点も合計点に加点する。																																										
実践的教育に関する経歴等	①歯科医師 ②歯科医院勤務																																										

授業科目名	運動器の構造と機能 I			授業形態	講義	教員名	草刈 直貴																																	
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生																														
授業概要	医療に携わる者として運動器の知識は重要である。柔道整復師であれば必須の知識となる。本講義では柔道整復師として必要不可欠な運動器の知識を修得することで、柔道整復術を学ぶための基礎作りを目的とする。																																							
授業の到達目標	1) 運動器の形態と構造を学習し理解する。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 オリエンテーション、解剖学用語</td> <td>第16週目 上肢の関節</td> </tr> <tr> <td>第2週目 骨格系総論、骨の構造</td> <td>第17週目 胸郭の連結、下肢の関節</td> </tr> <tr> <td>第3週目 骨の発生と成長</td> <td>第18週目 骨格筋総論</td> </tr> <tr> <td>第4週目 骨表面の形状についての用語、骨の連結</td> <td>第19週目 咀嚼筋、広頸筋、胸鎖乳突筋、舌骨上・下筋群、浅胸筋、横隔膜</td> </tr> <tr> <td>第5週目 骨の連結、胸郭、胸骨、肋骨</td> <td>第20週目 腹部の筋、浅背筋、深背筋第一層、固有背筋</td> </tr> <tr> <td>第6週目 上肢骨の構成、肩甲骨、鎖骨</td> <td>第21週目 上肢帯の筋、上腕の筋</td> </tr> <tr> <td>第7週目 上腕骨、橈骨、尺骨</td> <td>第22週目 前腕の屈筋、前腕の伸筋</td> </tr> <tr> <td>第8週目 手根骨、中手骨、指骨、種子骨</td> <td>第23週目 母指球筋、小指球筋、中手筋</td> </tr> <tr> <td>第9週目 下肢骨の構成、寛骨、骨盤</td> <td>第24週目 内寛骨筋、外寛骨筋</td> </tr> <tr> <td>第10週目 大腿骨、膝蓋骨</td> <td>第25週目 大腿の伸筋、大腿の内転筋、大腿の屈筋</td> </tr> <tr> <td>第11週目 脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、指骨</td> <td>第26週目 下腿の伸筋、腓骨筋群、下腿の屈筋</td> </tr> <tr> <td>第12週目 脊柱</td> <td>第27週目 骨格筋の支配神経について</td> </tr> <tr> <td>第13週目 頭蓋</td> <td>第28週目 後期期末テスト 対策</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末テスト対策</td> <td>第29週目 後期期末テスト 第1回</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末テスト</td> <td>第30週目 後期期末テスト 第2回</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>講義方法は範囲によって異なる。詳細は都度説明する。</p> <p>講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。</p> <p>授業計画は講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。</p>										第1週目 オリエンテーション、解剖学用語	第16週目 上肢の関節	第2週目 骨格系総論、骨の構造	第17週目 胸郭の連結、下肢の関節	第3週目 骨の発生と成長	第18週目 骨格筋総論	第4週目 骨表面の形状についての用語、骨の連結	第19週目 咀嚼筋、広頸筋、胸鎖乳突筋、舌骨上・下筋群、浅胸筋、横隔膜	第5週目 骨の連結、胸郭、胸骨、肋骨	第20週目 腹部の筋、浅背筋、深背筋第一層、固有背筋	第6週目 上肢骨の構成、肩甲骨、鎖骨	第21週目 上肢帯の筋、上腕の筋	第7週目 上腕骨、橈骨、尺骨	第22週目 前腕の屈筋、前腕の伸筋	第8週目 手根骨、中手骨、指骨、種子骨	第23週目 母指球筋、小指球筋、中手筋	第9週目 下肢骨の構成、寛骨、骨盤	第24週目 内寛骨筋、外寛骨筋	第10週目 大腿骨、膝蓋骨	第25週目 大腿の伸筋、大腿の内転筋、大腿の屈筋	第11週目 脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、指骨	第26週目 下腿の伸筋、腓骨筋群、下腿の屈筋	第12週目 脊柱	第27週目 骨格筋の支配神経について	第13週目 頭蓋	第28週目 後期期末テスト 対策	第14週目 前期期末テスト対策	第29週目 後期期末テスト 第1回	第15週目 前期期末テスト	第30週目 後期期末テスト 第2回
第1週目 オリエンテーション、解剖学用語	第16週目 上肢の関節																																							
第2週目 骨格系総論、骨の構造	第17週目 胸郭の連結、下肢の関節																																							
第3週目 骨の発生と成長	第18週目 骨格筋総論																																							
第4週目 骨表面の形状についての用語、骨の連結	第19週目 咀嚼筋、広頸筋、胸鎖乳突筋、舌骨上・下筋群、浅胸筋、横隔膜																																							
第5週目 骨の連結、胸郭、胸骨、肋骨	第20週目 腹部の筋、浅背筋、深背筋第一層、固有背筋																																							
第6週目 上肢骨の構成、肩甲骨、鎖骨	第21週目 上肢帯の筋、上腕の筋																																							
第7週目 上腕骨、橈骨、尺骨	第22週目 前腕の屈筋、前腕の伸筋																																							
第8週目 手根骨、中手骨、指骨、種子骨	第23週目 母指球筋、小指球筋、中手筋																																							
第9週目 下肢骨の構成、寛骨、骨盤	第24週目 内寛骨筋、外寛骨筋																																							
第10週目 大腿骨、膝蓋骨	第25週目 大腿の伸筋、大腿の内転筋、大腿の屈筋																																							
第11週目 脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、指骨	第26週目 下腿の伸筋、腓骨筋群、下腿の屈筋																																							
第12週目 脊柱	第27週目 骨格筋の支配神経について																																							
第13週目 頭蓋	第28週目 後期期末テスト 対策																																							
第14週目 前期期末テスト対策	第29週目 後期期末テスト 第1回																																							
第15週目 前期期末テスト	第30週目 後期期末テスト 第2回																																							
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会監修『解剖学(改訂第2版)』 医歯薬出版 他、授業内容に応じて資料を配布する。																																							
成績評価の方法	<p>【前期】期末テストを1回(100点満点)実施し、得点を前期成績とする。</p> <p>※前期中は複数回の小テストを実施する場合があるが、詳細は都度説明する。</p> <p>※小テストを欠席した者には、その理由を考慮し再評価の機会を与える場合があるが、最大6割評価とする。</p> <p>【後期】期末テストを2回(各50点満点)実施し、合計点を後期成績とする。</p> <p>前期成績が60点未満の場合、前期再試験の対象となる。</p> <p>後期成績が60点未満の場合、後期再試験の対象となる。(前期との合計が120点以上の場合を除く)</p> <p>前期・後期の合計が120点以上の場合、単位修得を認める。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格																																							

授業科目名	柔道整復師の歴史			授業形態	講義	教員名	菅野 貴宏			
科目区分	専門基礎分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	1 年生
授業概要	医学の歴史に紐づく柔道整復師の歴史を巡り、現代の柔道整復師に求められる役割について学習する									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代医学がどのような変遷をたどってきたのかを理解する。 ・柔道整復師の成り立ちを理解する。 ・現代の柔道整復師に求められる役割を理解する。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 オリエンテーションなど</p> <p>第2週目 医学史の概説1</p> <p>第3週目 医学史の概説2</p> <p>第4週目 医学史の概説3</p> <p>第5週目 医学史の概説4</p> <p>第6週目 柔道整復師の起源と盛衰1</p> <p>第7週目 小テスト、振り返り</p> <p>第8週目 柔道整復師の起源と盛衰2</p> <p>第9週目 柔道整復師の起源と盛衰3</p> <p>第10週目 柔道整復師の起源と盛衰4</p> <p>第11週目 柔道整復師の起源と盛衰5</p> <p>第12週目 現代の柔道整復師1</p> <p>第13週目 現代の柔道整復師2</p> <p>第14週目 試験対策</p> <p>第15週目 テスト、振り返り</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料は紙またはオンライン上で配布し、授業内でグループワークを適宜取り入れる。 ・小テストは班ごとの成績も加味するので、各自が協力して補完し合うこと。 ・Googleクラスルームを使用するため、オンラインに接続できる端末を毎時間準備すること。 ・欠席した場合の小テスト等の再評価はしないので注意すること。 									
教科書・参考書等	・なし									
成績評価の方法	<p>期末テスト (50)</p> <p>小テスト (30)</p> <p>課題成果 (20) 未提出は減点2とする</p> <p>上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。</p>									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

授業科目名	柔道整復師と職業倫理			授業形態	講義	教員名	菅野 貴宏			
科目区分	専門基礎分野	単位数	1 単位	時間数	15 時間	期間	半期	8 回	対象学年	1 年生
授業概要	柔道整復師の業務との関連性の高い社会保障制度の概要と療養費の概要を学び、医療保険と柔道整復師の行う接骨院業務との関係性を考える。 また、接骨院等で接する患者との間に求められる医療倫理や医療職の倫理観を学び、柔道整復師として備えるべき職業倫理とは何かを考える。									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療保険制度と療養費について概略を理解する。 ・医療倫理、患者の権利の概要を理解する。 ・柔道整復師の職業倫理を理解する。 									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 柔道整復師と社会保障制度 第2週目 柔道整復師と医療保険 第3週目 柔道整復師と療養費 第4週目 医療倫理と医療従事者としての心構え 第5週目 柔道整復師の職業倫理1 第6週目 柔道整復師の職業倫理2 第7週目 試験対策 第8週目 テスト、テスト解説 (授業の方法および自学学習について) <ul style="list-style-type: none"> ・資料は紙やオンライン上で配布し、授業内容にはグループワークを取り入れる ・授業内でGoogleクラスルーム等を使用するため、接続できる端末を準備しておくこと ・小テストは班ごとの成績も加味するので、各自が協力して補完し合うこと ・小テスト、グループワーク欠席時の再評価はしないので注意すること ・全8回の授業のため出欠管理に注意すること。 									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	期末試験の成果 (60) 小テストの成果 (40) * 日程は別に連絡する * 授業態度によって加点減点する場合があります(教員判断) 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

授業科目名	柔道整復総論 I			授業形態	講義	教員名	谷藤 淳史																																		
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生																															
授業概要	①柔道整復術とは何かを学び、骨の損傷について学習していく。 ②骨の損傷の理解を深めるため、骨の形態や機能、具体的な名称などを学習する。 ③小テスト、期末テストを通じて、国家試験に対応できる知識を学習する。																																								
授業の到達目標	・柔道整復術の意義と人体に加わる外力の概念を理解する。 ・骨の形態や機能及び骨損傷とは何かを理解する。																																								
授業内容・計画	(授業計画) <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">第1週目 オリエンテーション</td> <td style="width:50%;">第16週目 前期復習</td> </tr> <tr> <td>第2週目 人体に加わる力、損傷時に加わる力</td> <td>第17週目 骨折の合併症①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 痛みの基礎</td> <td>第18週目 骨折の合併症②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 骨の形態と機能、骨損傷の概説</td> <td>第19週目 骨折の合併症③</td> </tr> <tr> <td>第5週目 骨折の分類①</td> <td>第20週目 骨折の合併症④</td> </tr> <tr> <td>第6週目 骨折の分類②</td> <td>第21週目 小児骨折①</td> </tr> <tr> <td>第7週目 骨折の分類③</td> <td>第22週目 小児骨折②</td> </tr> <tr> <td>第8週目 骨折の分類④(小テスト対策)</td> <td>第23週目 高齢者骨折①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 前期小テスト</td> <td>第24週目 高齢者骨折②(小テスト対策)</td> </tr> <tr> <td>第10週目 骨折の局所症状</td> <td>第25週目 後期小テスト</td> </tr> <tr> <td>第11週目 骨折の固有症状</td> <td>第26週目 骨折の癒合日数、骨折の治癒経過</td> </tr> <tr> <td>第12週目 骨折の全身症状</td> <td>第27週目 骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期総復習</td> <td>第28週目 後期総復習</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末テスト</td> <td>第29週目 後期期末テスト</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末テスト解説</td> <td>第30週目 後期期末テスト解説</td> </tr> </table> (授業の方法および注意点) 講義方法は範囲によって板書中心、教科書中心、プリント中心と変化する。詳細は都度説明する。 講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。 各学期の小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。											第1週目 オリエンテーション	第16週目 前期復習	第2週目 人体に加わる力、損傷時に加わる力	第17週目 骨折の合併症①	第3週目 痛みの基礎	第18週目 骨折の合併症②	第4週目 骨の形態と機能、骨損傷の概説	第19週目 骨折の合併症③	第5週目 骨折の分類①	第20週目 骨折の合併症④	第6週目 骨折の分類②	第21週目 小児骨折①	第7週目 骨折の分類③	第22週目 小児骨折②	第8週目 骨折の分類④(小テスト対策)	第23週目 高齢者骨折①	第9週目 前期小テスト	第24週目 高齢者骨折②(小テスト対策)	第10週目 骨折の局所症状	第25週目 後期小テスト	第11週目 骨折の固有症状	第26週目 骨折の癒合日数、骨折の治癒経過	第12週目 骨折の全身症状	第27週目 骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子	第13週目 前期総復習	第28週目 後期総復習	第14週目 前期期末テスト	第29週目 後期期末テスト	第15週目 前期期末テスト解説	第30週目 後期期末テスト解説
第1週目 オリエンテーション	第16週目 前期復習																																								
第2週目 人体に加わる力、損傷時に加わる力	第17週目 骨折の合併症①																																								
第3週目 痛みの基礎	第18週目 骨折の合併症②																																								
第4週目 骨の形態と機能、骨損傷の概説	第19週目 骨折の合併症③																																								
第5週目 骨折の分類①	第20週目 骨折の合併症④																																								
第6週目 骨折の分類②	第21週目 小児骨折①																																								
第7週目 骨折の分類③	第22週目 小児骨折②																																								
第8週目 骨折の分類④(小テスト対策)	第23週目 高齢者骨折①																																								
第9週目 前期小テスト	第24週目 高齢者骨折②(小テスト対策)																																								
第10週目 骨折の局所症状	第25週目 後期小テスト																																								
第11週目 骨折の固有症状	第26週目 骨折の癒合日数、骨折の治癒経過																																								
第12週目 骨折の全身症状	第27週目 骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子																																								
第13週目 前期総復習	第28週目 後期総復習																																								
第14週目 前期期末テスト	第29週目 後期期末テスト																																								
第15週目 前期期末テスト解説	第30週目 後期期末テスト解説																																								
教科書・参考書等	教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』南江堂																																								
成績評価の方法	前期:前期小テスト及び前期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は前期再テストの対象となる。) 後期:後期小テスト及び後期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は後期再テストの対象となる。ただし、前期との合計が120点に到達する場合は再テストを免除とし、単位修得を認める。)																																								
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格																																								

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復総論Ⅱ			授業形態	講義	教員名	道白 大輔			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	総論は、各組織損傷の基礎を学ぶ。総論Ⅱでは、関節(靭帯、軟骨、脱臼)損傷、筋の損傷、腱の損傷、末梢神経の各損傷について、基本的構造と機能、損傷と症状、特徴的な所見を学び、治癒過程を学んでいく。									
授業の到達目標	1) 関節の構造・機能と損傷、症状、治癒過程を学ぶ。 2) 筋の構造・機能と損傷、症状、治癒過程を学ぶ。 3) 腱の構造・機能と損傷、症状、治癒過程を学ぶ。 4) 末梢神経の構造・機能と損傷、症状、治癒過程を学ぶ。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 オリエンテーション 第2週目 骨と関節の基礎知識 第3週目 関節の構造と機能 第4週目 関節の構造と機能 第5週目 関節部損傷の概説・分類 第6週目 関節部損傷の概説・分類、脱臼 第7週目 脱臼 第8週目 脱臼 第9週目 脱臼 第10週目 関節構成組織損傷 第11週目 関節構成組織損傷 第12週目 関節構成組織損傷 第13週目 前期総復習 第14週目 前期期末試験 第15週目 試験解説、問題演習 第16週目 関節構成組織損傷 第17週目 筋の構造と機能 第18週目 筋の構造と機能 第19週目 筋損傷の概説・分類 第20週目 筋損傷の分類・症状・治癒機序・予後 第21週目 腱の構造と機能 第22週目 腱損傷の概説・分類 第23週目 腱損傷の分類・症状・治癒機序 第24週目 末梢神経の構造と機能 第25週目 末梢神経損傷の概説・分類 第26週目 末梢神経損傷の分類 第27週目 末梢神経損傷の症状・治癒機序 第28週目 後期総復習 第29週目 後期期末試験 第30週目 試験解説、問題演習 (授業の方法および自学学習について) ・資料を配布し、資料に基づいて授業を行うことを基本とする。 ・授業進度に基づき、小テストを行う。小テストも成績評価に含める。 ・授業毎、必ず復習を行い小テストに臨むこと。 ・小テストで不十分だったところは期末試験までにしっかり復習すること。 ・授業中の携帯電話の使用(録音、録画等含む)、SNS等への投稿を認めない。 ・授業中の水分補給はやむを得ない場合以外は認めない。									
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』 南江堂 (社)全国柔道整復学校協会 監修『解剖学(改訂第2版)』 医歯薬出版									
成績評価の方法	①小テスト(20%)※半期ごと5回を予定しており、欠席-2点、60%未満-2点とする。 ②期末試験の成績(80%) ①、②は半期ごとに行い、総合成績が120点以上の場合に単位を認定する。 ただし、授業に臨む姿勢が好ましくない場合は減点とする場合がある。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸師 按摩マッサージ指圧師 柔道整復師 どうはく堂 西勝山接骨院 院長									

授業科目名	柔道整復総論Ⅲ			授業形態	座学/実技	教員名	半澤 優			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	基礎として各組織の損傷を理解することで各論として各損傷を理解するための土台作りを行う。理解度を深めるため、各組織の解剖学的構造や形態についても学習する。柔整師が行う徒手検査のうち、神経学的検査の仕組みと方法を学習し実技を行う。									
授業の到達目標	1) 各組織(筋・腱・末梢神経)の損傷について理解し、学習する。 2) 神経系の構造と機能を理解し、神経学的検査の仕組みや方法を学習する。 3) 臨床現場で神経学的検査を実践できる能力を身につける。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 ガイダンス／神経学的検査導入 第2週目 神経学的検査(反射①)/伸張反射について 第3週目 神経学的検査(反射②) 第4週目 神経学的検査(反射③) 第5週目 試験前練習 第6週目 前期実技試験(腱反射/病的反射) 第7週目 脳神経系の機能① 第8週目 脳神経系の機能② 第9週目 脳神経系の機能③ 第10週目 神経学的検査(脳神経) 第11週目 神経伝達について① 第12週目 神経伝達について② 第13週目 神経学的検査(感覚機能) 第14週目 試験前復習 第15週目 前期筆記試験 第19週目 神経学的検査(意識) 第20週目 神経学的検査(歩行①) 第21週目 神経学的検査(歩行②) 第22週目 神経学的検査(強調運動/筋トーンス) 第23週目 試験前練習 第24週目 試験前練習 第25週目 試験前練習 第26週目 後期実技試験(OSCE) 第27週目 後期実技試験(OSCE) 第28週目 後期実技試験(OSCE) 第29週目 神経の役割と構造① 第30週目 神経の役割と構造② 第31週目 試験前復習 第32週目 試験前復習 第33週目 後期筆記試験 (授業の方法および自学学習について) ・許可なく授業内容の撮影/録音/SNSへの投稿は禁止とする。 ・授業中の飲料摂取を許可する。									
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』 南江堂 (社)全国柔道整復学校協会 監修『解剖学(改訂第2版)』 医歯薬出版 (社)全国柔道整復学校協会 監修『生理学(改訂第4版)』 南江堂 他、授業内容に応じて資料を配布									
成績評価の方法	前期 : 期末試験(筆記) 70% (実技) 30% 後期 : 期末試験(筆記) 50% (実技) 50% ※通年で、120/200点以上を取得すれば単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格 接骨院勤務:5年、整形外科クリニック勤務:2年									

授業科目名	外傷の保存療法			授業形態	講義	教員名	古小高 朗浩			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	1 年生
授業概要	柔道整復師の治療法である『 整復 』、『 固定 』、『 後療法 』や患者への指導管理、外傷の予防についての理論を学ぶ。									
授業の到達目標	①一般的な保存療法の概念を理解し、他者に説明出来るようになる事を目標とする。 ②問題演習を反復し、国家試験問題に対応できる知識を養う。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 骨折の整復法 第2週目 骨折の整復法 第3週目 脱臼の整復法 第4週目 軟部組織損傷の処置 第5週目 固定法 第6週目 第1回小テスト / 手技療法 第7週目 運動療法 第8週目 物理療法 第9週目 物理療法 第10週目 指導管理 第11週目 外傷予防 第12週目 第2回小テスト 第13週目 前期総復習 第14週目 期末試験 第15週目 テスト解説 (授業の方法および自学学習について) ・授業は必要に応じて板書やプロジェクターを使用する。各自ノートの準備を忘れないこと。 ・自学学習は教科書を中心にすすめること。 ・授業後には課題を課す。提出期限は1週間とし、提出課題は成績評価の一部とする。授業を欠席した場合は登校後に課題を受け取りに職員室を訪問し、課題の作成・提出を行うこと。									
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編(改訂第7版)									
成績評価の方法	①提出課題20点分(全ての課題の提出をもって20点評価とする。未提出課題1つにつき2点を減点する。) ②小テスト30点分 ③前期期末試験50点分 ※最終評定は100点法によって行い、60点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

授業科目名	柔道整復各論 I			授業形態	講義	教員名	高野 正和			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1年生
授業概要	①身体各部の解剖学的特徴を基に、各損傷の発生要因、症状、整復、固定法について学ぶ。 ②臨床現場で遭遇する骨折・脱臼等の鑑別など、適切な判断のために必要な知識について学ぶ。									
授業の到達目標	・損傷の要因となる身体各部の解剖学的特徴を理解する。 ・各損傷の特徴を理解する。									
授業内容・計画	(授業計画) (授業計画) オリエンテーション、シラバス等の説明 第2週目 鎖骨、肩甲骨の解剖と構造 第3週目 鎖骨骨折～上腕骨骨折に關与する筋と機能 第4週目 解剖柔整専門用語小テスト 第5週目 鎖骨骨折総論～合併症① 第6週目 鎖骨骨折総論～合併症②後遺症 第7週目 肩甲骨骨折分類～要点① 第8週目 肩甲骨骨折分類～要点② 第9週目 前期小テスト 第10週目 上腕骨の構造、解剖、分類 第11週目 上腕骨近位端骨折① 第12週目 上腕骨近位端骨折② 第13週目 期末テスト対策 第14週目 期末テスト 第15週目 期末テスト解説 第16週目 前期復習と上腕骨骨折の解剖 第17週目 上腕骨骨幹部骨折① 第18週目 上腕骨骨幹部骨折② 第19週目 上腕骨遠位端骨折① 第20週目 上腕骨遠位端骨折② 第21週目 上腕骨遠位端骨折③ 第22週目 上腕骨遠位端骨折④ 第23週目 後期小テスト 第24週目 肩関節の構造、胸鎖関節脱臼 第25週目 肩鎖関節脱臼① 第26週目 肩鎖関節脱臼②、肩関節脱臼① 第27週目 肩関節脱臼② 第28週目 期末テスト対策 第29週目 期末テスト 第30週目 期末テスト解説 (授業の方法および注意点) 講義は板書が中心となる。適宜、練習問題を配布する。 講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。 各学期の小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。									
教科書・参考書等	教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』南江堂									
成績評価の方法	前期:前期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は前期再テストの対象となる。小テストの成績により加点減点を加味する。) 後期:後期小テスト及び後期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は後期再テストの対象となる。小テストの成績により加点減点を加味する。 ただし、前期との合計が120点に到達する場合は再テストを免除とし、単位修得を認める。)									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格									

授業科目名	柔道整復後療法演習			授業形態	実技	教員名	鈴木 美加			
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	15 時間	期間	半期	8 回	対象学年	1 年生
授業概要	柔道整復師が治療法として行う各後療法について実技演習を行い学習する。									
授業の到達目標	1) 手技療法 各基本手技の作用・効果、禁忌を理解し、目的に応じた手技を行うことができる。 2) 運動療法 運動療法の種類、目的、禁忌を理解し、器具を用いた運動療法の指導・実践を行うことができる。 3) 物理療法 物理療法の分類、適応と効果、禁忌を理解し、目的に応じた物理療法の選択・取扱いができる。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 後療法、手技療法 第2週目 手技療法 第3週目 運動療法 第4週目 運動療法 第5週目 物理療法 第6週目 物理療法 第7週目 期末試験 第8週目 試験解説、後療法の実際									
	(授業の方法および自学学習について) ・実習内容に応じた場所で授業を行う。場所は都度伝える。 ・服装は、手技療法、物理療法の週は白衣、運動療法の週は動きやすい服装で行う。 ・授業中の携帯電話の使用(録音、録画等含む)、SNS等への投稿を認めない。 ・授業中の水分補給は認めない。休憩時間に行うこと。但し、運動療法の週は水のみ可とする。									
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』 南江堂 (社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』 南江堂									
成績評価の方法	期末試験の成績 上記の項目が60点以上の場合に単位を認定する。 ただし、授業に臨む姿勢が好ましくない場合は、減点とする場合もある。									
実践的教育に関する経歴等	クリニック・整骨院勤務									

授業科目名	柔道整復基礎実技 I			授業形態	実技	教員名	半澤 優				
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生	
授業概要	実技/座学を通して包帯法・固定法を習得する。 基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法、絆創膏固定を習得することで種々の疾患に対応できるように理解し、技術を磨いていく。										
授業の到達目標	柔道整復師に必要な包帯法及び固定法の基本的技術を習得すること。 先人たちが古来から研鑽してきた技術と知識を理論的に理解しつつ最新の技術や固定材料についても学ぶことで、2年次以降のより実践的な包帯法及び固定法へのスムーズなステップアップを果たすための基礎形成を目的とする。										
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 オリエンテーション/足関節テーピング① 第2週目 足関節テーピング② 第3週目 基本包帯法(麦穂帯) 第4週目 基本包帯法(亀甲帯)/部位別包帯法(手～前腕) 第5週目 巻軸包帯の基礎/基本包帯法(環行帯、螺旋帯、蛇行帯) 第6週目 基本包帯法(折転帯)☆ 第7週目 基本包帯法(亀甲帯、麦穂帯)☆ 第8週目 固定の目的・範囲・肢位/部位別包帯法(足関節①) 第9週目 部位別包帯法(足関節②)☆ 第10週目 部位別包帯法手指～手関節①) 第11週目 部位別包帯法手指～手関節②)☆ 第12週目 部位別包帯法(手関節～上腕)☆ 第13週目 部位別包帯法(下腿部)☆ 第14週目 前期期末試験(筆記) 第15週目 三角巾の使い方 第16週目 固定材料の種類と特性 第17週目 冠名包帯法(デゾー包帯①) 第18週目 冠名包帯法(デゾー包帯②)☆ 第19週目 冠名包帯法(ヴェルポー包帯)☆ 第20週目 冠名包帯法(ジュール包帯)☆ 第21週目 ギプス固定の実際 第22週目 固定材料の作製(吸水硬化性キャスト材)① 第23週目 固定材料の作製(吸水硬化性キャスト材)② 第24週目 絆創膏固定(足関節捻挫①) 第25週目 絆創膏固定(足関節捻挫②) 第26週目 絆創膏固定(足関節捻挫③)☆ 第27週目 絆創膏固定(肘関節MCL損傷、腓腹筋肉ばなれ) 第28週目 再評価日 第29週目 後期期末試験(筆記) 第30週目 固定材料の作製(晒包帯、厚紙副子)										
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会監修『包帯固定学(改訂第2版)』医歯薬出版 ※筆記用具持参										
成績評価の方法	前期 : 実技テスト70%(再評価制度あり)/期末筆記試験30% 後期 : 実技テスト50%(再評価制度あり)/期末筆記試験50% ※授業中の【授業態度】【服装の乱れ】によって減点評価となる場合がある。 ※前期/後期とも再試験は「実技試験」にて実施する。 ※通年で、120/200点以上を取得すれば単位を認定する。										
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格 接骨院勤務:5年、整形外科クリニック勤務:2年										

授業科目名	柔道整復基礎実技Ⅱ			授業形態	実習	教員名	鈴木 美加			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	患者との信頼関係を築き、柔道整復師の業務を正しく遂行するための正しい医療面接について学び、また患者のもつ身体的異常を的確に把握、評価し、最適な治療法を選択・実行するための身体評価法を学習していく。									
授業の到達目標	1) 医療面接の方法を習得する。 2) 各種評価法の基本的手順を習得する。 3) 施術録の扱いと記載の仕方を習得する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 オリエンテーション/診察の意義と進め方 第16週目 関節可動域測定 第2週目 診察の意義と進め方 第17週目 関節可動域測定 第3週目 身体評価の流れ/評価の時期による分類 第18週目 関節可動域測定 第4週目 受付の流れ/受付表の記入の仕方 第19週目 関節可動域測定 実技試験 第5週目 問診表の記入の仕方 第20週目 関節可動域測定 実技試験 第6週目 医療面接基礎 演習 第21週目 関節可動域測定 実技試験 第7週目 医療面接基礎 演習 第22週目 徒手筋力検査法 第8週目 医療面接基礎 実技試験 第23週目 徒手筋力検査法 第9週目 医療面接基礎 実技試験 第24週目 徒手筋力検査法 第10週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測 第25週目 徒手筋力検査法 実技試験 第11週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測 実技試験 第26週目 徒手筋力検査法 実技試験 第12週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測 実技試験 第27週目 徒手筋力検査法 実技試験 第13週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測 実技試験 第28週目 施術録の扱いと記載の仕方 第14週目 前期総復習 第29週目 後期総復習 第15週目 前期試験/前期試験返却、解説 第30週目 後期試験/ 後期試験返却、解説 (授業の方法および自学学習について) 1) 授業は座学と実技を行うこととする。 2) 実技授業の際は必ず白衣を着用し、アクセサリ等の装飾品ははずすこと。 3) 身だしなみには十分に注意し、白衣は常に清潔を保つよう努めること。									
教科書・参考書等	1) 柔道整復学・理論編 (改定第7版) 2) 授業内で配布するプリント									
成績評価の方法	1) 各半期の成績は実技試験ならびに期末試験の成績によって評価する。配点は次の通りとする。 * 実技試験(50点) / 期末試験(50点) 2) 半期ごとの成績は学年末に総合し、最終評定を出す。最終評定では通年で120/200点以上を合格とし単位を認定する。 3) 実技試験は特別な事情(公欠等)のない限り再試験は行わないため欠席しないよう注意すること。 4) 実技授業への参加が消極的と判断した場合は、1回の授業につき5点を減点する。 例) 実技を行わず見ているだけや私語の多さが目立つ場合									
実践的教育に関する経歴等	クリニック・整骨院勤務									

授業科目名	外傷予防の実際 I			授業形態	実技	教員名	津田 新吾			
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	1 年生
授業概要	一般的な運動器疾患や障害予防を目的とした方法論を講義や実技にて論じる。本科目は、日本スポーツリハビリテーション学会(JSSR)認定トレーナー資格関連科目である。									
授業の到達目標	一般的な外傷予防の概念を理解し、他者に説明・実践が出来るようになる事を目標とする。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 外傷予防とは運動が生体に与える影響</p> <p>第2週目 外傷予防の概要</p> <p>第3週目 外傷予防対策</p> <p>第4週目 コンディショニング実技 フォームローラー</p> <p>第5週目 コンディショニング実技 フォームローラー</p> <p>第6週目 ストレッチングとは</p> <p>第7週目 エクササイズテクニック1 事例検討</p> <p>第8週目 エクササイズテクニック2</p> <p>第9週目 エクササイズテクニック3</p> <p>第10週目 エクササイズテクニック4</p> <p>第11週目 エクササイズテクニック5</p> <p>第12週目 エクササイズテクニック6</p> <p>第13週目 エクササイズテクニック7</p> <p>第14週目 実技テスト</p> <p>第15週目 期末テスト</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>必ず運動着着用の事</p> <p>14週目に実技試験を実施する。公欠となった場合は、時間外で対応する。</p> <p>公欠とならなかった場合は、実施しない。</p>									
教科書・参考書等	<p>全国柔道整復学校協会監修教科書 競技者の外傷予防 (公社)全国柔道整復学校協会 監修/小林直行・高橋康輝 著</p> <p>NSCAジャパンストレングス&コンディショニング エクササイズ・バイブル NSCAジャパンヒューマンパフォーマンスセンター【著】/福永 哲夫【監修】</p>									
成績評価の方法	<p>期末試験 70%</p> <p>実技試験 30%</p>									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師・柔道整復専科教員資格 CSCS									

授業科目名	トレーニング科学			授業形態	講義	教員名	大津 正久																																	
科目区分	選択必修科目	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生																														
授業概要	機能解剖学や運動生理学、身体運動学などの基礎的知識を学習する。 各種トレーニングを実技によって学習する。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的分野を統合し、身体活動による変化を学習し、現場に活かす。 ・各種トレーニング法を学びストレングストレーナーとしての知識を深める。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 トレーニング科学とは</td> <td>第16週目 運動生理学(内分泌系)</td> </tr> <tr> <td>第2週目 体力学とは</td> <td>第17週目 運動生理学(神経系)</td> </tr> <tr> <td>第3週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第18週目 運動生理学(神経系)</td> </tr> <tr> <td>第4週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第19週目 運動生理学(骨格筋系)</td> </tr> <tr> <td>第5週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第20週目 運動生理学(骨格筋系)</td> </tr> <tr> <td>第6週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第21週目 運動生理学(骨格筋系)</td> </tr> <tr> <td>第7週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第22週目 バイオニクス(てこの作用含む)</td> </tr> <tr> <td>第8週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第23週目 バイオニクス(てこの作用含む)</td> </tr> <tr> <td>第9週目 運動生理学(循環器系)</td> <td>第24週目 パワー向上トレーニング</td> </tr> <tr> <td>第10週目 運動生理学(循環器系)</td> <td>第25週目 スピード向上トレーニング</td> </tr> <tr> <td>第11週目 運動生理学(呼吸器系)</td> <td>第26週目 有酸素性持久トレーニング、無酸素性持久トレーニング</td> </tr> <tr> <td>第12週目 運動生理学(呼吸器系)</td> <td>第27週目 ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)</td> </tr> <tr> <td>第13週目 運動生理学(エネルギー代謝)</td> <td>第28週目 柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験解説</td> <td>第30週目 後期期末試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について) 板書を中心に進行する。</p>										第1週目 トレーニング科学とは	第16週目 運動生理学(内分泌系)	第2週目 体力学とは	第17週目 運動生理学(神経系)	第3週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第18週目 運動生理学(神経系)	第4週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第19週目 運動生理学(骨格筋系)	第5週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第20週目 運動生理学(骨格筋系)	第6週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第21週目 運動生理学(骨格筋系)	第7週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第22週目 バイオニクス(てこの作用含む)	第8週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第23週目 バイオニクス(てこの作用含む)	第9週目 運動生理学(循環器系)	第24週目 パワー向上トレーニング	第10週目 運動生理学(循環器系)	第25週目 スピード向上トレーニング	第11週目 運動生理学(呼吸器系)	第26週目 有酸素性持久トレーニング、無酸素性持久トレーニング	第12週目 運動生理学(呼吸器系)	第27週目 ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)	第13週目 運動生理学(エネルギー代謝)	第28週目 柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験解説	第30週目 後期期末試験解説
第1週目 トレーニング科学とは	第16週目 運動生理学(内分泌系)																																							
第2週目 体力学とは	第17週目 運動生理学(神経系)																																							
第3週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第18週目 運動生理学(神経系)																																							
第4週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第19週目 運動生理学(骨格筋系)																																							
第5週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第20週目 運動生理学(骨格筋系)																																							
第6週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第21週目 運動生理学(骨格筋系)																																							
第7週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第22週目 バイオニクス(てこの作用含む)																																							
第8週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第23週目 バイオニクス(てこの作用含む)																																							
第9週目 運動生理学(循環器系)	第24週目 パワー向上トレーニング																																							
第10週目 運動生理学(循環器系)	第25週目 スピード向上トレーニング																																							
第11週目 運動生理学(呼吸器系)	第26週目 有酸素性持久トレーニング、無酸素性持久トレーニング																																							
第12週目 運動生理学(呼吸器系)	第27週目 ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)																																							
第13週目 運動生理学(エネルギー代謝)	第28週目 柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期期末試験解説	第30週目 後期期末試験解説																																							
教科書・参考書等																																								
成績評価の方法	期末試験(年2回)、出席状態、授業状態により総合的に判定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	①スポーツ系専門学校勤務 ②整形外科(運動療法)勤務 ③近畿大学講師 ④東北大学アメフト部 トレーニングコーチ																																							